

研究の概要

一子どもの発達支援、子育て環境サポートのための調査を実施していますー



① 1歳半健診：市町村で実施する問診票

② 3歳児健診：市町村で実施する問診票

③ 小学2年生：保護者用アンケート

④ 小学5年生：保護者用アンケート

⑤ 中学2年生：保護者用・生徒用アンケート



「研究のはじまり・目的」

✓ 東日本大震災後の福島県沿岸部の子育て環境から

発災後の長期に渡る避難生活では、生活拠点を何度も移す（転居）ことを余儀なくされたご家族も多くいらっしゃいました。それに伴い、転園や転校、馴染みのない土地での子育てなど、親子が生活する環境の変化が大きかったと言えます。

転居先の地域の保健師さんや園や学校の先生たちは、落ち着かない環境の変化が大きい中で過ごす子どもたちにみられる行動が、一時的なものなのか継続していくのか、子どもや保護者の支援ニーズにどのように応えていけるのかなど、支援をする中での疑問や課題がみえてきました。

そこで、私たちは、市町村の母子保健担当課や教育委員会と協力して、この研究をはじめることになりました。

子どもの発達支援では、定点よりも長期的に継続的に発達の状況を確認し、サポートすることが重要です。

長期に渡りこどもの発達や子育て環境を調査し、親子の支援方法を考えることを目的としました。

「研究の内容」

大規模複合災害を経験した世帯と、経験したことのない世帯の両方の子育て環境や子どもの発達の経過について調べます。

調べる方法は、市町村で実施している乳幼児健診の結果と、小学生・中学生時に実施させていただくアンケート調査です。

小さい頃から大きくなるまでのデータが集まることで、こどもたちの心理的社会的発達に対する災害の影響をより詳細に把握し、それぞれの成長段階での適切な支援策を提案することが可能になります。

「今後について」

研究結果は、国や市町村、教育委員会などの今後の子どもの発達支援、子育て環境づくりに役立てて参ります。

自然災害の多い日本において、子どもたちが安心して生活しやすい環境づくりの一助となるよう取り組んで参ります。

※ご不明の点については、本ホームページの問い合わせ先までメールにてご連絡をお願いいたします。